

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻
動物臨床看護学総論/動物臨床看護学各論』（第2版第1刷）
訂正とお詫び

掲載記事中、以下の記事に誤りがございました。ここに訂正させていただくとともに読者の皆様及び関係者の方々に深くお詫び申し上げます。

株式会社 EDUWARD Press

2026年3月9日作成

頁	記事タイトル	該当箇所	誤	正
p.4	動物臨床看護学総論 第1章	表1-1-1 「医療福祉等関係 職種資格の法制 化」の最下行 「2017年」の国 家資格名	公認心理士	公認心理師
p.16	第1章	左段上中見出し	ヒト医療における「チ ーム医療」の発展	ヒト医療において発展した QOLの考え方
p.198	動物臨床看護学総論 第1章演習問題	問4 選択肢③	虚脱や失神を伴う呼吸困 難は徐脈性不整脈だけが 原因となっていることが 多い。	虚脱や失神を伴う呼吸困難 は徐脈性あるいは頻脈性不 整脈が原因となっているこ とが多い。
p.202	動物臨床看護学総論 第1章演習問題解説	問4 解説正答	虚脱や失神を伴う呼吸困 難は徐脈性不整脈だけが 原因となっていることが 多い。	虚脱や失神を伴う呼吸困難 は徐脈性あるいは頻脈性不 整脈が原因となっているこ とが多い。
p.218	動物臨床看護学各論 第1章	中見出し 「短頭種気道症候 群」 1行目	短頭種気道症候群とは、 短頭種の犬にみられる上 部気道の解剖学的あるい は機能的異常に伴い、さ まざまな上部気道障害を 引き起こす症候群であ り、犬にのみ発生する。	短頭種気道症候群とは、短 頭種の犬および猫にみられ る上部気道の解剖学的ある いは機能的異常に伴い、さ まざまな上部気道障害を引 き起こす症候群である。

p.218	動物臨床看護学各論 第1章	小見出し 「症状・病態生理」 3行目	(短頭種気道症候群)の 犬ではこれらの～	(短頭種気道症候群)の犬 および猫 ではこれらの～
p.218	動物臨床看護学各論 第1章	小見出し 「検査」 1行目	短頭種の犬に特徴的な～	短頭種の犬 あるいは猫 に特徴的な～
p.391	動物臨床看護学各論 第2章7	「眼の観察」 左上から4行目	莖膜	強膜
p.396	動物臨床看護学各論 第2章7	「白内障」 左下から6行目	過熟期	過熟期
p.422	動物臨床看護学各論 第2章8	左段上から6行目	大型犬においては膝蓋骨が外側に脱臼する膝蓋骨外方脱臼のほうがよく認められる。	外方脱臼は大型犬でよく認められるとされているが、「大型犬だから外方脱臼」と限定するものではなく、臨床的にも内方脱臼が多い印象である。
p.427	動物臨床看護学各論 第2章8	左段下から1行目	犬においてはグレードI～IIIのOCDは臨床症状を現さないため診断されることはまれである。	犬においてはグレードI～ II のOCDは臨床症状を現さないため診断されることはまれである。
p.449	動物臨床看護学各論 第2章9	表2-10-2「タンパク尿に基づくサブステージ」表の最左上から4行目	タンパク尿のボーダーライン	タンパク尿
p.449	動物臨床看護学各論 第2章9	表2-10-2「タンパク尿に基づくサブステージ」最右上から4行目(猫UP/C値)	>0.5	>0.4
p.509	動物臨床看護学各論 第2章11	「心肺蘇生法ガイドライン」左下から5行目	(図2-12-6)	削除
p.513	第2章11	右段下から8行目	原因として、インスリン	削除

	救急疾患		の過剰摂取、インスリン 産生性腫瘍、腎性の糖尿 によるブドウ糖の消費の 増加、グリコーゲン貯蔵 不足、飢餓などがある。	
p.520	動物臨床看護学各論 第2章 11	「ショック」の図 番号と該当文章 左段上から5行目	図2-12-7 ショックの 病態 (図2-12-7)	図2-12-6 ショックの病 態 (図2-12-6)